

# 腫瘍

## Tumor

コース責任者

臨床腫瘍学教授 中島 貴子

### 1. 学習目標

#### 1) 一般目標 (GIO)

悪性腫瘍に対する内科的治療を理解するために、腫瘍の発生機構、診断、抗腫瘍薬の作用機序と有害事象および治療選択について学ぶ。

#### 2) 行動目標 (SBOs)

- ① がんの疫学と発生における遺伝的要因と外的因子および予防・検診について説明できる。
- ② がんの病理学的診断について説明できる。
- ③ 抗がん治療の効果と副作用について評価できる。
- ④ 標準治療の位置づけとその実践にあたってのチーム医療について説明できる。
- ⑤ がん治療におけるインフォームドコンセントとセカンドオピニオンについて説明できる。
- ⑥ がんに対する薬物療法の利点と限界について説明できる。
- ⑦ がんに対する手術療法の利点と限界について説明できる。
- ⑧ がんに対する放射線療法の利点と限界について説明できる。
- ⑨ がんの緩和医療について説明できる。
- ⑩ Oncologic Emergency について概説できる。

### 2. 教育内容

種々の臓器、器官の腫瘍の詳細については各コースで詳しく学ぶため、本コースではがん診療の重要性を理解し、腫瘍全般に共通するがん診療の診断から終末期医療までの流れおよびその実践における基本姿勢や考え方について学ぶ。

### 3. 成績評価

#### 1) 総括的評価

学年末に行なう。認識評価については筆記試験を行なう。態度の評価は出欠により行なう。

#### 2) 形成的評価

講義での評価は随時行ない、その方法は担当教員に委ねられる。

下記の評価項目を総合して総括評価する。

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	1	90 (%)	後期期末試験期間中に実施する。
授業態度		10 (%)	

#### 4. 教科書・参考書

教科書

1. 『入門腫瘍内科学 改訂第2版』 日本臨床腫瘍学会監修 篠原出版新社 2015年

参考書

2. 『新臨床腫瘍学 - がん薬物療法専門医のために - 改訂第4版』 日本臨床腫瘍学会編 南江堂 2015年
3. 『Cancer Principles and Practice of Oncology』 Lippincott Williams & Wilkins 2014年

#### 5. 準備学習

入門腫瘍内科学の総論を予習しておくこと。

#### 6. オフィスアワー

役職	氏名	時間	場所	連絡先
教授	中島 貴子	火 以外	臨床腫瘍学 医局	tnakajima
准教授	砂川 優	月 以外	〃	y.sunakawa
講師	小倉 孝氏	火・金 以外	〃	takogura
講師	津田 享志	木 以外	〃	tatsuda

メールアドレスは@marianna-u.ac.jpが省略